

☆第3回恵庭子ども未来議会が開催されました☆

恵庭市制施行50周年事業の一環として開催されている「恵庭子ども未来議会」の第3回目（最終回）が12月17日（木）に恵庭市議会の議場において開催されました。

市内の各中学校から選出された子ども未来議員のうち各校の代表1名が、前回行われた一般質問の内容を踏まえ、市の将来像や今後のまちづくりについての展望や要望をまとめた「未来提言」を発表しました。



恵明中学校 大月 太陽 議員は、「市民の手により運営される『コミュニティパーク（仮称）』構想」として、多くの世代がまちづくりに参画し、互いに関わり合うことで地域を活性化できるような場を新設することを提言しました。この構想を実行する際には、市民ボランティアによる運営を基本とすることや、図書館機能や学習スペースを確保し小・中学生の学びの場として定着させること、コロナ禍を踏まえてテレワークへのニーズに応えるためのシェアオフィスを充実させることなど、7点について考慮するよう求めました。



柏陽中学校 入来院 帆南 議員は、恵庭市の魅力をさらに高め、市民と観光客が集うことのできるまちづくりにつながるよう提言しました。市民が集うまちづくりとしては、恵庭で安心して出産や子育てができる環境の整備や恵庭の自然条件を生かして農業を活発化させるなど、住んでいる人が心地よく安心して住み続けることのできる環境づくりや恵庭を誇りに思うような取組を求めました。また、観光客が集うまちづくりとしては、豊かな自然を生かしたキャンプ場の設置や、地元企業や大学等のご当地グルメの開発などにより、恵庭の魅力を発信し、さらに活気のあるまちとなるよう求めました。

恵北中学校 吉田 時也 議員は、恵庭市の将来目指すべきまちの在り方を3つ提言しました。1つ目は「誰もが安心して暮らせるまち」を目指し、障がい者や高齢者をはじめ全ての人が不安なく生活できるよう、商業施設や福祉施設を充実させること、2つ目は「人が集まる花のまち」を目指し、道と川の駅花ロードえにわや花の拠点はなふるを重点にPR戦略を展開すること、3つ目は「一人ひとりが主役のまち」を目指し、来てみたい・暮らしやすい・住み続けたいまちとするよう、市民一人ひとりが主役となって考え、意見を発信していくことを提言しました。



恵み野中学校 舛井 彩花 議員は、恵庭市のまちづくりについて3つ提言しました。1つ目は恵み野駅前の施設跡地に様々な目的に利用可能な複合施設をつくり、恵み野地区の活性化を図ること、2つ目は図書に係る既存の取組をより多くの人に浸透させるだけでなく、複合的なイベントや幅広い年代に親しんでもらえる取組を行うこと、3つ目は恵庭の歴史をより多くの人に知ってもらえるような取組を行い、今後の恵庭市の発展について取り組むことを提言しました。



恵庭中学校 石尾 志津真 議員は、前回の一般質問終了後に全校生徒へ実施したアンケートの結果をもとに、恵庭市の将来を担う中学生の居場所づくりをテーマに3つ提言しました。1つ目はかしのもりについて、スマートフォンを使用できる場所や、小学生との利用スペースを分けて静かに勉強できる場所を確保すること、2つ目は屋内外でスポーツするに当たり整えてほしい設備として、市内の公園に体を思いっきり動かしたり他の人とコミュニケーションをとることのできる場所をつくること、3つ目は公園を利用するに当たりあったらいいと思うものとして、他地域に先駆けて公園にWi-Fiを設置することを提言しました。

子ども未来議員による提言の発表後、原田市長及び穂積教育長より提言に対する所見として、感想や労いの言葉をいただきました。また、これまで3回にわたって行われた子ども未来議会を総括して、伊藤議長より講評がありました。

会議終了後、子ども未来議員は学校ごとに議長及び市長を表敬訪問しました。部屋に入るときは少し緊張した様子でしたが、議長や市長から温かい言葉をかけていただくと、ほっとしたように晴れやかな表情になりました。また、市長に対し、子ども未来議員から提言書を直接提出しました。



これまで3回にわたって開催された子ども未来議会は、これもちまして終了いたしました。今回の未来提言は、恵庭市の今後のまちづくりに活用されていくことと思います。子ども未来議員の皆さん、大変お疲れ様でした☆★

